日刊
# 動労千葉
85. 5. 9
No. 1933
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

## 動労千葉 銚子支部 青年部

## 動労「本部」革マル 土屋粋一派をふみくだいて さあ進撃だ。

動労千葉銚子支部は、いま、組織的・運動的にいきいきとめざましい躍進をとげている。脱落・裏切集団＝土屋粋一派の妨害に抗して動労千葉最後の支部として宮崎初代支部長のもと二〇名で発足した銚子支部は、今日、ついに四七名の文字通り銚子における最多数組合員を結集する主流派支部として西本支部長のもと団結かたく堂々と前進している。土屋一派が「千葉の最大〝拠点〟」と誇る銚子では彼らは今や二九名にまで衰退し、「名雪問題」にみられるように、ただただ当局や動労「本部」革マルにとりすがって「横車」をおす集団として存在するにすぎなくなっている。動労千葉破壊に手を貸す「土屋粋一派」を解体・一掃するまでとことんがんばりぬく決意である。この決意も鮮明に、去る四月二七日、ついに念願の銚子支部青年部結成総会が盛大にかちとられた。

### 4/27 川越青年部長を先頭に23名

総会は、川越準備委員長の開会のあいさつの後、議長に石橋君を選出、議事が進められた。

まず支部を代表して、西本支部長は、「春闘も超低額。『三本柱』も動労千葉のみ未妥結という中で大変な圧力がかけられている。更に『過員活用』攻撃など情勢は厳しいが、なまじっかな形で妥協する訳にはいかない。青年部こそ先頭を担ってもらいたい」と鮮明に提起、続いて、来賓としてかけつけた、本部田中青年部長、行川津田沼支青副部長、石川佐倉青年部長、成田支青高橋君があいさつ。「厳しい現状のなかで、新しい青年部ができることはほんとうに喜ばしいことです」（行川）、「銚子が増えた分成田は半分位になってしまったが負けずにがんばる」（高橋）、等の発言に総会も大いに盛り上る中で、川越君が、結成に至る経過と今後の方針を提起、また、鈴木(貫)君が、規約を提起、満場の拍手で、青年部の結成を確認した。

新役員には、準備委員がそのまま移行することが確認された。あいさつにたった川越新青年部長は、「ただひとつ言いたいことは、皆さんの力がなければ何の闘いもできません。ガッチリ団結を固めて進もう」と呼びかけ、最後に、加瀬新書記長の音頭で団結ガンバローを力いっぱい三唱し、大成功のうちに総会を終了した。

夕方には、場所を移して、結成祝の席ももたれ、いよいよ闘いの第一歩をスタートした。全支部青年部の団結をうち固め、進もう！

（青年部通信員・発）

元気いっぱいの決意を表明する役員。右から三番目が川越青年部長、ヨロシク――！

### 銚子支青新役員

| | | |
|---|---|---|
| 青年部長 | 川越　一夫（電運士・二七才） | |
| 副青年部長 | 鈴木　貴雅（〃・二六才） | 〃　越川　幸夫（〃・二七才） |
| 〃 | 小西　一美（〃・二七才） | 〃　永井　一代（〃・二五才） |
| 書記長 | 加瀬　利夫（〃・二八才） | 〃　伊藤　彰（〃・二六才） |
| 執行委員 | 庄田　聡（〃・三一才） | 〃　鈴木　康久（〃・三一才） |
| | | 会計監査　戸村　洋（〃・〃） |
| | | 〃　鎌形　幸夫（〃・二六才） |

## 家族会で汐干狩

館山

館山支部は、好評の潮干狩を家族会主体で今年も実施した。国鉄バスを貸切り、笹生支部長を先頭に十六家族、五六名の参加のもと、晴天の四月二一日早朝館山を出発一路富津海岸へ、日曜日で絶好の潮干狩日和りとあって、海は人でいっぱいであった。着くと早々に海に入り昼頃には両手いっぱいのアサリをかかえた子供達は、楽しさいっぱいで上ってきた。

公園での昼食は帰りの時間を忘れる程のにぎやかさ、十四時に富津を発ち、途中東京湾観音に立ち寄り、帰りの車中はカラオケ大会等でなごやかなうちに、無事館山に到着し有意義な一日をすごした。

来年もぜひ、計画するつもりである。（館山支部通信員・発）

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！